

どう防ぐ?



ネット トラブル

「ネットは匿名の世界。誰が何をしていてもバレない」。その勘違いして「爆発予告メール」「殺人予告メール」など匿名を前提にした犯罪行為が後を絶たないが、言いつまでもなく、ネットの世界は匿名の世界ではない。ネット上の行為の多くは情報発信が伴い、結果として個人特定が容易なことも多い。

例えばデジカメの写真。画像だけでなく、撮影日時、シャッタースピード、ISO感度などさまざまな情報が同時に記録されている。場合によるGPSによる位置情報

も記録されていて、撮影箇所が簡単にわかってしまつ。スマホで「こんな料理を作りました」「うちの犬です」と写真を撮って公開するだけで、その撮影場所も大公開してしまつていて、例が非常に多い。ネットに公開する可能性があるのならば、スマホのGPSは切つてから撮影するべきだ。

電子メールも「ヘッダー情報」という部分に、誰がいつ、どこからどこを経由して送られてきたのか記録されている。つい先日「浜松市内の小学校を爆破する」と自分のスマホからメールを送

ってしまった女子中学生がいたが、すぐに特定されてしまった。

は生の文字がそのまま送受信されているので、クレジットカード番号などを直接書くのも危険。

「匿名の世界」という幻想

情報発信にはモラルと節度

メールこそ匿名性から最も遠いところにある仕組みの一つである。

「ホームページを見るだけなら、こちら側の情報は伝わるはずがない」と思ふ人もいるがそれも

少し見ただけなのに、全く別のページでも同種の広告が表示される、という経験はお持ちではないだろうか?

これは「行動ターゲティング広告」と呼ばれるしくみで、ユーザーの動きと嗜好(しこう)を記録・識別し、別なサイトでも興味のありそうな広告を表示する、というもの。ユーザーの嗜好や動きが即座に蓄積・分析され、反映されている一例だ。

これからの新しい技術・サービスがどんどん出てくるであろうネットの世界。しかし匿名で何でもできる」ということにはならないことだけは確か。実社会以上にモラルと節度ある利用が必要だと思ふ。



S. TSUDA

もっとわかりやすい例を挙げよう。

ネットで気になる商品をショッピングサイトで